

がん遺伝子プロファイリング検査 (がん遺伝子パネル検査) を 受ける方とご家族の方へ

わからないことがあればお気軽にご質問ください

本日お渡しする資料

- 医師が説明時に用いた説明文書
- がんゲノム情報管理センター
(略称：C-CAT) のパンフレット

インターネットで得られる情報の例

- ▶ 国立研究開発法人国立がん研究センター
国立がん研究センター東病院 (当院)
 - 「がんゲノム医療について」
- ▶ 国立研究開発法人国立がん研究センター
がんゲノム情報管理センター (C-CAT)
 - C-CATのウェブサイト
<https://for-patients.c-cat.ncc.go.jp/>
 - 患者さん向けサイト
『がんゲノム医療とがん遺伝子パネル検査』
https://www.ncc.go.jp/jp/c_cat/index_kan_jya.html
- ▶ 国立研究開発法人国立がん研究センター
がん情報サービス
 - 「がんゲノム医療 もっと詳しく」
https://ganjoho.jp/public/dia_tre/treatment/genomic_medicine/genmed02.html

よくいただくご質問

参考：「がん遺伝子検査」とは？

- がんが生じている遺伝子変化の特徴を調べる検査です。あなたのがんに特徴的な遺伝子変化を明らかにすることで、治療法の選択に役立つことがあります。大きく2つに分けられます。
 - ・従来から行われる1つもしくは少数遺伝子を対象とした検査
 - ・数十から数百の遺伝子を一度に調べる「がん遺伝子プロファイリング検査（がん遺伝子パネル検査）」
- がん遺伝子プロファイリング検査を保険診療として実施する場合の検査費用は56万円です。お支払い額は負担割合によって異なります。高額療養費制度の対象となる場合があります。
- がん遺伝子プロファイリング検査から検査結果に基づく治療に結びつくのは1割程度とされています。遺伝子の変化に適した薬を実施できるか、専門家会議の結果に基づき担当医より説明します。

Q 研究で、過去に遺伝子プロファイリング検査をしたことがあるのですが、保険適応された遺伝子プロファイリング検査を受けることができますか？

A 可能です。ただし、同一のがん組織を同一の検査に用いた場合は追加情報が得られない可能性が高いと考えられます。

Q がん遺伝子プロファイリング検査を行うと、遺伝性腫瘍の可能性がわかるのでしょうか？

A 遺伝性腫瘍の診断を目的とした検査ではありませんが、遺伝性腫瘍であること又は遺伝性腫瘍の可能性があることがわかる場合があります。

がん遺伝子プロファイリング検査は、がん細胞で生じた遺伝子の変化を調べる検査です。検査の過程で、遺伝性腫瘍の素因を生まれつき持っている又はその可能性があることがわかる場合があります。

予防法や治療法がある場合など、専門家チームがご本人や血縁者の健康管理に有益と判断した場合は、お知らせしたいと考えていますが、このような情報をお聞きになりたいかどうかは事前に伺うご本人のご希望を尊重します。なお、お伝えできるのはあくまでも可能性を示す参考情報です。ご不明な点がありましたら検査前に主治医の先生とよくご相談ください。

がんに関する遺伝的な体質について相談したい場合は、別途、遺伝カウンセリングを受けていただいたり、遺伝学的検査を検討いただくこともできます。（費用は別途かかります）

Q 遺伝性腫瘍（がんに関する遺伝の情報）の情報提供を希望するかはどのように決めればよいでしょうか？

A ご本人の治療法や血縁者の健康管理に関わる場合がありますので、検査を行う施設の医師や医療スタッフと検査前によくご相談ください。

Q 検査結果の説明を受ける際、他院へ入院中などで本人が来院出来ない場合はどうすればよいですか？

A 検査結果説明までの間に他院へ入院したりご本人が来院できなくなったりした場合は、遺伝子プロファイリング検査のために受診した病院へご連絡ください。